

平成 10 年 11 月 19 日

郷土資料館収蔵品展

『トキワ荘のヒーローたち・2 ～漫画にかけた青春～』

— 四畳半から紡ぎだされた夢と友情 —

豊島区立郷土資料館（西池袋 2-37-4）では、『トキワ荘のヒーローたち・2』と題し、かつて区内の小さなアパートに集い住んだ漫画家達の足跡をたどる展示会を 12 日より開催している。同展は 1986 年に第 1 回特別展が開催され、手塚治虫生誕 70 年にあたる今年、12 年ぶりのヒーローたちの再登場となる。

トキワ荘は、豊島区旧椎名町（現南長崎）にあった木造 2 階建ての小さなアパートで、昭和 20 年代から 30 年代の一時期、手塚治虫、寺田ヒロオ、藤子不二雄、石ノ森章太郎、赤塚不二夫ら、戦後日本の漫画界をきら星のごとく彩るヒーローたちが青春の一時代をともに過ごしたところである。昭和 27 年、新築まもない同アパートの一室を手塚治虫が仕事部屋として借りたのを皮切りに、彼を慕う若き漫画家たちが次々に住み集い、四畳半一間から多くの作品を生み出していった。別名「マンガアパート」と呼ばれたトキワ荘は、さながら漫画に青春をかけた若者たちの梁山泊であり、ともに苦闘する中から夢と友情が紡ぎ出された場所でもあった。

今回の展示会では、前回の特別展の後に亡くなった手塚治虫、寺田ヒロオ、藤子・F・不二雄、石ノ森章太郎の 4 名を中心にその作品を紹介し、戦後の漫画文化を振り返る。また、トキワ荘時代の彼らの暮らしぶりとおわせて、1950 年代の区の様子を写真や地図で紹介する。藤子不二雄 A 氏撮影のトキワ荘周辺のスナップや同氏の日記を参考に作成した“生活・文化圏マップ”等の展示には、彼らの青春の足跡がぎざまれている。また、藤子不二雄の入居に際して、生活必需品等の細かい手引きを綴った寺田ヒロオからの手紙を参考に、当時の四畳半の部屋をイメージ再現したコーナーもあり、懐かしい折畳式の卓袱台、日用品からインスタントラーメン・缶詰等の定番食品まで展示されている。水とコップパンで空腹をしのいだという下積み時代の彼らの、それでも「大きな夢を描いて暮らしていた」トキワ荘での姿が彷彿とされる。

- ・会期：平成 11 年 1 月 24 日（日）まで
- ※休館日：月曜・祝日・毎月第 3 日曜、及び 11/24(祝日振替)、12/28～1/4(年末年始)
- ・開館時間：午前 9 時～午後 4 時 30 分
- ・展示内容（展示点数約 150 点）
 - ①トキワ荘と並木ハウス
 - ②トキワ荘の時代 ～1950 年代の豊島区～
 - ③四畳半の夢 ～トキワ荘の暮らし
 - ④追悼・4 人のヒーローたち
 - ⑤漫画の栄養源 ～新漫画党の活動
 - ⑥永遠のヒーローたち
- ・入場無料
- ・なお、同館学芸員による展示説明会を今週末の 11 月 21 日(土)、22 日(日)の午後 2 時～3 時に行います。(同説明会は、12 月 19 日、1 月 9 日・16 日も開催予定)

詳細：豊島区立郷土資料館